

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">山 崎 奈々絵【論文博士】 (人間発達科学専攻 平成22年9月単位修得退学)</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">戦後初期の教員養成改革 —「大学における 教員養成」の成立と一般教養の位置づけ—</p>	<p>本論文は、一般教養を重視して師範タイプを克服するという理念が、教員養成大学・学部の発足当初からその実質を伴っていなかったことを明らかにした研究である。本論文の特色は、戦後初期の師範学校及び再編後の教員養成大学・学部のカリキュラムと教官組織に即し、一般教養を重視して師範タイプを克服するという理念が急速に後退していく過程と要因を明らかにした点にある。全体が「第1部 制度改革をめぐる議論」「第2部 制度改革の具体化」「第3部 教員養成大学・学部におけるカリキュラム及び教官組織の形成過程」の3部で構成されている。</p> <p>第1部では、戦後初期の教員養成論の到達点および教育刷新委員会の審議を検討している。教育刷新委員会が教育者の育成を主とする学芸大学を構想し、師範学校を「師範タイプ」を生み出したとして否定的に捉え、一般教養による教員養成という理念を提示したことが確認されている。一般教養の概念やイメージがあいまいであったこと、小学校教員と中学校教員を抱き合わせで養成することにしたことの意味が大きかったことも指摘されている。</p> <p>第2部では、師範学校におけるカリキュラム改革、IFELの研究活動、大学基準協会の活動および文部省・大学設置委員会の構想を検討している。師範学校が転換した複数の大学に所蔵される資料をも使いながら、これらの各機関で進められた制度改革のプロセスにおいて、一般教養による教員養成が具体化されなかったばかりか、ほとんど考慮さえされなかったことが明らかにされている。</p> <p>第3部では、師範学校から教員養成系大学・学部へ転換する過程における、各大学・学部によるカリキュラムの編成作業と教官組織の形成過程を、大学所蔵の資料を駆使しながら検討している。大学に転換するにあたり、すべての大学に置かれた一般教養（一般教育）以上に教員養成固有の一般教養カリキュラムは、一部で構想されたものの具体化されるには至らず、また師範学校の教員がほぼそのまま大学の教員に配置換えされ、一般教養教育を大きく展開できるようなスタッフの構成になっていなかったことも明らかにされている。</p>
審査委員	(主査) 教授 米田俊彦	
	准教授 浜野 隆	
	教授 池田全之	
	准教授 富士原紀絵	
	教授 小玉亮子	